３つのヒューリスティックス　p.18

〔代表的ヒューリスティック〕

例　：理屈っぽい〇〇君（A）は，文系ではなく理系（B）に違いない。（この例では，「理系の典型的なイメージ＝理屈っぽい（C）」と考えている）

説明：事象Ａとカテゴリー Ｂの関連の強さを，そのカテゴリーに典型的に見られる特徴Ｃにもとづき判断する。

〔利用可能性ヒューリスティック〕

例　：地震が起きた直後では，地震のことが鮮明に浮かぶので，地震の確率を高く見積もる。

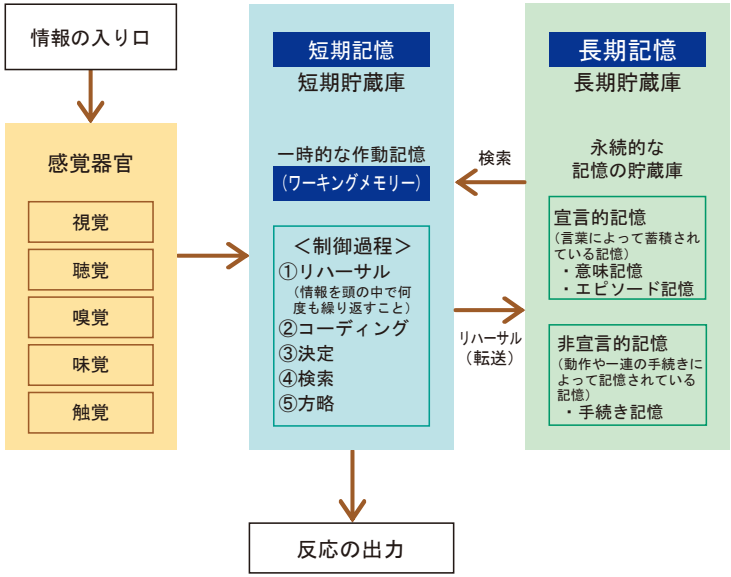
説明：ある事象の起こりやすさを，その思い浮かびやすさにもとづき判断する。

〔係留と調整ヒューリスティック〕

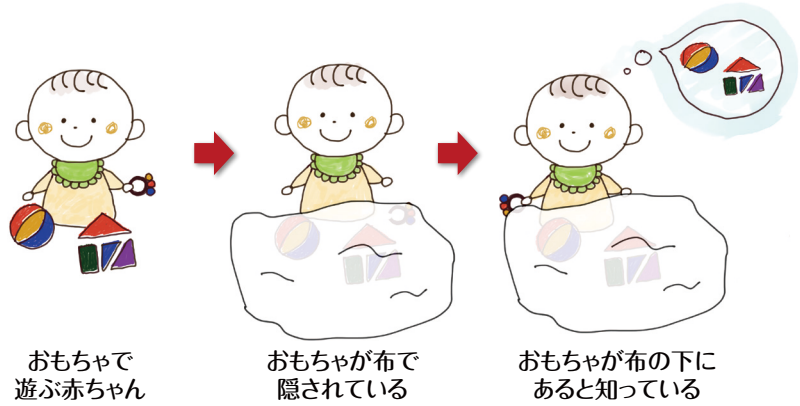
例　：私の勉強時間は５時間なので，私より真面目な〇〇さんの勉強時間は６時間くらいだろう。

説明：量の大きさを推測するとき，はじめの量を設定し（係留），そこから調整することで判断する。

記憶のしくみ ―二重貯蔵モデル　p.18



対象の永続性　p.19



※生後，およそ６ヵ月を過ぎると，目の前のおもちゃが布で隠されるなどして，直接見えなくなっても，それが存在し続けるという，対象の永続性を獲得する。